

45 . 亀とトカゲ

むかし、二匹の友だち、亀とトカゲがいました。

ある日、亀が言いました。「友よ、一緒に私のおじいさんの生姜を盗もうよ。」

「君のおじいさんは、怒るぞ。」とトカゲは答えました。

「まだわからないよ。」と亀が言いました。「見ろ、君の仕事は全く簡単だ。僕が生姜を地面から引き抜くから、君はそれを持って逃げるんだ。」

トカゲは同意し、ふたりの友人は庭へ急ぎました。

亀は生姜を次々抜き、トカゲは一度に少しずつ運び去りました。すぐに、庭のほとんど半分の生姜がなくなりました。

すると、持ち主の、老人は、来て、ほとんど彼の生姜の半分がなくなっているのを見ました。彼は大変頭に来ましたが、庭には誰も見えません。トカゲは滑るように走って、近くの茂みに逃げ込み、亀は、椰子の殻の下に隠れました。

「だれが私の生姜を盗んだんだ？」と老人は叫びました。

亀はそれを聞きました。「彼を真似してからかうと面白いぞ。」と彼は考えました、そして叫びました。「だれが私の生姜を盗んだんだ？」

老人は、彼の瓢箪のヘルメットを取り、言いました。「この帽子は、私の真似をしてからかっている。」彼は自分のヘルメットを地面に叩きつけました。

老人は、また叫びました。「だれが私の生姜を盗んだんだ？」

細い声が彼の後で叫びました。「だれが私の生姜を盗んだんだ？」

勿論それは亀の声でしたが、今度は、老人は彼のボロというナイフが彼の真似をしてからかっていると思いました。彼はボロを投げ捨てました。

三度目に、老人は叫びました。「だれが私の生

姜を盗んだんだ？」また、その声は彼の問いを繰り返しました。

「それは私のシャツに違いない。」と老人は言いました。彼はシャツを脱ぎ、足で踏みつけました。

また、老人は叫びました。「だれが私の生姜を盗んだんだ？」
そしてまた、声は真似をしました。

「それは私のズボンに違いない。」と老人は言いました。そして、彼はそれを脱ぐと、力の限り、遠くへ投げつけました。

声は、また彼の問いを繰り返しました。

「それは、私のお尻に違いない。」と老人は言いました。彼は棒を持つと、椰子の殻の上に座り、彼自身のお尻を棒で叩きました。彼は自分自身を強く叩いたので、痛みで叫びました。それと同時に、彼は足で飛び上がり、そして椰子の殻は引っくり返り、亀が現れました。

「ああ、そうか、お前が私の真似をしてからかっていたんだな！」老人は怒鳴り声をあげました。「よく教えてやる。お前を焼き殺してやるぞ！」

老人は乾いた草や棒を集めて、大きな山に積み重ねました。そして彼は亀をその山の下に置くと、急いでマッチ箱を取ってくるために家に帰りました。

彼が去るや否や、トカゲが現れました。「友である亀よ、山の下で何をしているんだ？」とトカゲが聞きました。

「魚の池を警護しているんだ。」と亀は答えました。

「それは面白い。」とトカゲが言いました。

「代わってやろうか。」

「もしやりたいなら。」と亀は言いました。

亀は山から出て、トカゲがそれに飛び込みました。

ちょうどその時、老人が到着しました。彼はマッチを擦って、山に火を着けました。

「この山は燃えているぞ！」とトカゲは言って、燃える山から這い出し、走って逃げました。彼は下手に火傷しました。

フィリピン 神話と伝説

老人はトカゲが燃える山から逃げ出し、彼の頭を引っ掻きました。

「これはおかしい！」と叫びました。「私は亀を山に入れたのに、トカゲが出てきた。」

次の日、トカゲは亀を探して、言いました。「あいつを見つけたら、削って食べてやるぞ。」

「友だち亀よ、どこにいたんだ？」とトカゲは言いました。

「ここだよ！」と、家に入ろうとした亀は答えました。

「その家に入ってどうしようというんだ？」とトカゲは聞きました。

明日、この家のふたりの子どものうちのひとりの洗礼の名付け親になるんだ。もし、君がもうひとりの名付け親になるなら、ふたりの子どもと一緒に洗礼が受けられる。どうだい、行って、もうひとりの名付け親にならないか？」と亀は付け加えました。

そして、トカゲは家に入ってゆきました。彼は、犬がその子犬の養育をしているのを見ました、そしてふざけてそれらの一匹に触りました。犬は彼に飛び掛り、彼に食いつきました。トカゲは家から走って逃げました。

次の日、トカゲは自分自身に言い聞かせました。「亀のやつに、責任を取らせてやる。今に探し出してやるぞ。」

すぐに彼は亀を見つけました。

「友だち亀よ、ここで何をやっているんだ？」とトカゲは聞きました。

「王様の太鼓を警護しているんだ。」と亀は答えました。「正直な人々だけが、それをするように頼まれる。あまり近寄らないでくれ。」

亀が、王様の太鼓だと言っていたのは、ミツバチの箱だったのです。

「私が君に代わらせてもらえないか？」とトカゲは頼みました。

「よし、君がやりたいなら、かわりにやらせて
45 . 亀とトカゲ

あげるよ。」と亀は答えました。そして、トカゲは、それが王様の太鼓だと思って、ミツバチの箱を守っていたのです。

亀が言いました。「もし太鼓の音が聞きたいなら、この棒を使って叩いたらいい。」

亀はトカゲに棒を渡すと、急いで立ち去りました。

トカゲは棒を手にとって、全力を込めて、ミツバチの箱を叩きました。

すると、箱からミツバチが飛び出して、トカゲに群がりました。背中を刺す者もいれば、尻尾を刺す者もいました。そこで、トカゲは、川へ走って行き、ミツバチが去るまで、そこに留まっていた。

1週間後、トカゲは茂みの中にいました。彼は、いつものように亀を探していました。

「友だち亀よ、お前はどこにいるんだ？」とトカゲは叫びました。

「ここだよ！」と亀は答えました。「僕は大きなバイオリンを見ているんだ。」

「バイオリンで何だ？」

「それは楽器だよ、バカ。」と亀は答えました。

「僕も見ていいかい？」トカゲは嘆願しました。

「よし、そんなに言うなら。」と亀は言いました。

彼らは場所を代わって、亀が付け加えました。「もし、君がバイオリンから甘い音楽を聴きたければ、僕が言うようにしなさい。君の首をこれらの二本の竹の間におきなさい。風が吹くのを待つんだ。風が強く吹いたら、君は、今までの生涯で一番甘い音楽が聞けるんだ。」

亀は出て行き、トカゲは二つの竹の間に首を置きました。折りしも、強い風が吹いて、トカゲの首はその間に挟まってしまいました。トカゲが二本の竹の間から解放されるのには、ほとんど丸一日かかりました。

二日後、トカゲは、また亀を探していました。「友だち亀よ、どこにいるんだ。」とトカゲが叫

フィリピン 神話と伝説
びました。

「ここだよ！」と亀は答えました。

トカゲは、亀のいるところへ行きました。

「ここで何をしているんだ？」とトカゲが尋ねました。

「僕のおじいさんの、魚の池から、魚がいなくなるんだ。」と亀が答えました。「どうしてそうなったのか見たいなあ。」

そこは、魚の池ではなく、サトウキビ圧搾機だったのです。

亀は、タンクの中の熱い砂糖ジュースを指差しました。

「見ろ、たくさんの魚がいるだろう！」と亀は叫びました。

「僕はそれらを全部捕まえてやる。」とトカゲは言って、タンクの中に飛び込みました。

その時、労働者が彼を引き上げなかったら、トカゲは死ぬまで、その中で沸かされていたでしょう。

数日過ぎて、トカゲは、いつもの習慣で、亀に会った時、茂みの中を歩き回っていました。

「友だち亀よ、手に何を持っているんだ？」とトカゲが聞きました。

「金だ！」と亀は答え、トカゲの顔に近づけて、金の棒を持って見せました。

「それで何をするつもりだい？」

「それで、冠を作るつもりだ。」と亀は答えました。

「僕にも冠を作ってもらえないかなあ。」

「もちろんだ。」亀は答えて、金細工職人の所へ行きました。

「これはどなたの金ですか？」と金細工職人は聞きました。

「私のものだ！」と亀が言いました。

「私のものだ！」とトカゲが言いました。

「あなたたちは、それから私に何を作らせたいのですか？」と金細工職人は聞きました。

「冠だ！」と亀が言いました。

「冠だ！」とトカゲが言いました。

金細工職人は言いました。「二日後、来てください。しかし、よく聞いて。どちらも、ここに来る前に、腹いっぱい食べて来てください。大きなおなかの人が、その冠を得るでしょう。」

亀は急いで家に帰り、食べ始めました。彼は食べに食べました。彼は2日間で食べました。

トカゲもそうしました。彼は亀のお腹より大きくなりたくて、あらゆる種類の食べ物を、二日間食べました。

そして、亀とトカゲは、金細工職人の所へやってきました。彼は亀のお腹と、そしてトカゲのお腹を計りました。

「亀のお腹の方が、大きいですね。」と金細工職人は言い、彼に冠を渡しました。

家へ帰る途中、トカゲは、亀に忍び寄り、冠を引ったくり、彼の頭に乗せました。ところが、それは重すぎて、彼はバランスを失い、水でいっぱいの水路に落ちました。彼はもう少しで、溺れるところで、そして亀は彼を見て、あざ笑いました。

練習問題

語彙の学び

次の言葉の意味を辞書で調べなさい。その言葉を使って、文章を作りなさい。

- 1 . hurried
- 2 . uprooted
- 3 . slithered
- 4 . mimic
- 5 . trampled
- 6 . buttocks
- 7 . revealing
- 8 . Baptismal sponsor
- 9 . goldsmith
- 10 . crown

判断しなさい。

- 1 . いくつかの大きな出来事がこの話にはありまし

フィリピン 神話と伝説

たか？それぞれの出来事にタイトルをつけてみてください。

2. 生姜は、誰のものだったですか？
3. 老人が彼の問いを繰り返す声を聞くたびに、彼の行った行動を、あなたはどのように思いますか？
4. どちらが負けましたか？ どちらが勝ちましたか？
5. あなたは、物語を読んで、楽しかったですか？ どうしてですか？

友だちに、物語を話すこと

あなたは、この話に似たお話を何か知っていますか？ また、そこでは、動物が話しますか？ もしできるなら、あなたの友だちにその話をしてあげてください。

明確化と発展の評価

1. あなたは誰かの真似をしてからかったことがありますか？ どんな状況でそれをやりましたか？ あなたの目的は何でしたか？ それは良い結果を生みましたか？
2. どの登場人物が、いつも負けてばかりいる者ですか？ 実生活に、そんな人はいますか？
3. 私達は私達の仲間の知識がなかったり、または不足していることを利用すべきでしょうか？ なぜするべきではないのでしょうか？